

【新宿区 教育委員会事務局】 校務 DX 計画

令和 5 年 9 月に実施した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」において、新宿区の自己点検結果は 540 点満点中 345 点であった。この自己点検の結果を踏まえて、新宿区では以下の取り組みや検討を行い、校務 DX を進めていく。

1 教員と保護者間の連絡のデジタル化

教員と保護者間の連絡のデジタル化については、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡や学校から保護者への一斉配信などではクラウドサービスの活用が進んでいるが、保護者から学校への提出資料の受付けやアンケート等の項目では、クラウドサービスの活用が進んでいない結果となった。今後は、クラウドサービスを使って受付けすることができる提出資料（重要事項説明確認書兼借用書など）の検討を行い、クラウドサービスの活用を更に進める。

2 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化では、児童生徒が 1 人 1 台教育用パソコンを毎日持ち帰り、家庭で利用できるようにしているなど、1 人 1 台の教育用パソコンを活用したデジタル化が進んでいる結果となった。しかし、授業などでの CBT（コンピュータベースドテスト）などの活用がすすんでいない結果となり、今後は MEXCBT（文部科学省 CBT システム）等の活用を広げていく必要がある。

3 学校内の連絡のデジタル化

学校内の連絡のデジタル化については、職員会議等のペーパーレス化や職員間の情報共有などでクラウドサービスの活用が進んでいるが、職員室以外の場所から情報共有が進んでいない結果となっている。この原因の一つとして考えられるのが、校務支援システムが職員室以外の場所では利用できないことがあり、今後、校務系システムの更新時期にあわせてグループウェアなどの機能についてクラウドサービス活用を検討していく。

4 その他

FAX の使用や押印・署名が必要な書類の項目については、新宿区の自己点検の結果において、「FAX を使用している」「押印・署名が必要な書類がある」などの結果が目立った。これらの見直し・改善に向けては FAX や書類などについて、やり取りを行う相手方の協力を得る必要があるなどの課題がある。そのため、まずは先進自治体の事例を参考に教育委員会とのやり取りの見直しを検討していく。